

KSKS

No.136

25.4.28

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告
「補修・点検でより良い活動へ」
理事長 庄野 千恵子 … 1

◆Reports
◇天理市なんでも相談会 … 2

◆Reports
さわやぎ … 2
ぽすと／こもれび就労 … 3
地活歩っと … 4

◆Information
ゆいゆい通信発送に関して … 4
職員配置 … 5
第34回こころの講演会案内 … 6

補修・点検でより良い活動へ

新年度が始まりました。

今年度は各事業の活動方針には大きな変化はありませんが、ヘルパーステーションぐっと・たいむは対象者や支援のあり方を継続して検討していて、過渡期の様相にあります。

法人事業としては、福祉充実計画を新たに策定します。本部事務所が入るさわやぎの建物の大規模な補修工事を予定しています。

法人運営においては、毎年実施している基本情報のみの利用者実態調査に加えて、テーマを決めた調査を2026年度に実施するため、ワーキングチームを設けて準備にとりかかります。また、職員が法人全体の動きを見ることができ、考えることができる形を改めて検討します。法人運営の一環である「研修」「広報」「防災」に関する部会会議の他、スタッフ会議や施設長主任会議の目的や意義、理事会、評議員会、常勤理事会などの議事録の共有方法などを見直します。それぞれ目的を持って始めた方法や形でしたが、時を経て形骸化していないか点検が必要です。

2024年度で終了となった県委託事業の精神・発達障害者雇用企業サポート事業(D-PORT)は、障がい者雇用をしている企業のサポートだけでは

なく、障がい者という判定はなくても働きづらさや困難を抱える人も働くことができる職場を考え、企業風土を醸成していく場面にも関わらせていただいていた。既存の障がい福祉、就労の支援事業で賄えない支援もあることによって、働く環境や地域で暮らす環境の豊かさが高まるのではないかと考えていましたので、こうした事業の終了はとても残念なことです。

障がいの有無に関わらず生きづらさを抱える人々も、それぞれ自分らしく暮らしたり働いたり、認められる地域社会をめざし、地道に活動を続けます。これからもご理解、ご支援をお願い致します。また、様々なお立場からご意見をお聞かせいただければ幸いです。
(庄野千恵子)

【法人の動き】

- ・理事会(3/3)、評議員会(3/21)において2025年度活動方針・予算が承認されました
- ・県の委託事業「精神・発達障害者雇用企業サポート事業(D-PORT)」が2024年度末で終了となりました
- ・2025年4月採用職員1名、育休より復帰職員1名

Reports

天理市役所で「なんでも相談会」開催

天理市役所1階市民ホールで3月19日(水)、「なんでも相談会」がありました。主催は「なんでも相談会in天理 実行委員会設立準備会」です。一つの相談に対し、天理市社協、生活支援コーディネーター、居住支援、相談支援、訪問看護、児童支援、弁護士などの専門職2~3人で対応しました。

予想を上回る20組の市民が相談に訪れ、準備した6つのブースはすぐに埋まって、13時から16時まで相談が途切れませんでした。

相談内容は、土地の相続の問題や高齢、障がい者の医療のこと、成年後見、税といった制度に関することなど様々です。別の用件で市役所に来た人が看板を見て立ち寄り、相談していったケースもありました。

準備会のメンバーの社会福祉法人寧楽ゆいの会の福田陽子さんは「今回の企画の良い点は、市役所のフロアで開催したのでその場で市のサービスの手続きにつながられたこと、天理市内の専門職が顔の見える関係を作るきっかけになったこと」と話します。

同じく準備会メンバーの社会福祉法人大和清寿会の西浦正典さんは、「生活支援コーディネーターとして介護予防・生活支援の体制づくりを進める中で、地域住民の生活課題が複雑化していて、単一の専門職で相談を受けることが難しいと感じる。関係機関のつながりを広げていく中で今回の企画が実現した」と話します。

準備会では、医療や福祉、法律など様々な支援が必要な相談をワンストップで受けて、課題解決に導くことができるように、なんでも相談会の定期開催を目指しています。
(六十谷尚美)



◀ 受付の後、担当者とおのブースへ

さわやぎ

さわやぎ、春の大掃除中です！

さわやぎでは3月初旬から事業所内にある毛糸や古布、着物などを整理しています。棚を開けるたびにこんなものも！これはこういう作品にしようとしていたのかな？ というような様々なものが次から次へと出てきました。

さわやぎは長年、ゆるやかなサロン機能とものづくり、さをり織り、内職作業を活動に取り入れてきました。特にさをり織りでは裂き織りという古い着物などを裂いて横系に使う織り方を主にしてきました。それらに使うてもらえたら、と関係者の皆さまから着物や古布などをいただくことが多かったようです。

時が流れ、だんだんと織りにたずさわる人や織り上がったものを作品に仕上げる機会が少なくなり、たくさんの素材が戸棚で眠っている状態でした。いろんな思いのあるであろう物たちを片づけるのは思い切りが必要でしたが、劣化して使えないものは思い切って処分しました。



◀ 毛糸や着物、古布がずらり

まだまだ使えそうなものはメンバー、各事業所、関係者などに声をかけたところ、思った以上にたくさんの方が興味を持って見に来られ持ち帰ってくれました。

「さわやぎ」という事業所名の由来は当時のメンバーが発案した「さわやか」「やすらぎ」などから来た造語です。これまで紡がれてきたさわやぎへの想いは大切に残しつつ、より居心地のよい場所へとみんなで協力しながら整えていけたらと思います。

(土田恵利佳)

ぽすと

ぽすと&たっくんのお菓子屋さん
新年度に向けて

菓子製造や店舗に関するミーティング「スイーツプロジェクト」を3月24日(月)に行ない、メンバー7人、スタッフ1人が参加しました。今回は「ぽすと&たっくんのお菓子屋さん」の2024年度を振り返り、2025年度の取り組みについても話し合いました。

◆店舗

ハロウィンや2周年記念などのイベント開催時はふだんに比べお客さんが多く、売り上げも増えました。イベントにあわせて、近隣にチラシを配ったことも要因の一つです。一方でイベントのない期間、特に夏場は売り上げが落ち込む傾向にあり、今年も例年通りでした。お客さんが少ないと店舗での仕事も減り、モチベーションの低下につながっている現状もあります。

◆出張販売

店舗でお客さんを待つだけでなく、地域に出向き

販売することも大切にしました。メンバーや「たっくんのバームクーヘン屋さん」からの紹介で「奈良ノ空カラ」や「たんぽぽ祭り」など初出店したイベントもあり、2024年度は21回もの販売会に参加しました。土日祝日に関わらず、多くのメンバーが参加し、自分たちの商品を手に取ってもらえることにやりがいを感じています。また、出張販売は店舗を安定して運営するための大きな収入源にもなっています。

◆2025年度の取り組み

店舗で開催するイベントや出張販売、商品試作などの時期を共有してスムーズに準備できるよう、年間スケジュールを作成しました。また、クッキーを販売している店に商品やレイアウト、接客などを学ぶための見学に行く企画もしています。

課題である夏場に向けては、新商品の開発や新たな取り組みについて、すでに動き始めています。

(宮崎涼真)

こもれび就労

幸運の四つ葉のクローバーはいかが？

絵の上手なメンバーのHiroshiさんが素敵なしおりを作ってくれました。表は可愛いHiroshiさん手書きのイラスト、裏はこれもHiroshiさんがコツコツと探してきた四つ葉のクローバーを押し花にしたもの。こんなにたくさんの四つ葉のクローバーを見たのは初めてです。

「何かに使えれば」と持ってこられたので、お客さんに幸運のおすそ分けができればと思い、しおりをクッキーとセットにしたプチギフトとして販売することにしました。でき上がった商品を、お弁当の配達先に宣伝してみると少しずつですが注文がありました。



◀ かわいいクッキーは、ぽすとで焼いてもらいました



▶ お弁当と一緒にお届けしました

Hiroshiさんに早速報告したところ「もっと作らないと!」とちょっとプレッシャーに感じたようなので、これからはゆるく販売していこうと思います。

いつものお弁当のように日々消費していくものを作っていくのも楽しいですが、メンバーとともに「残るもの」を作るのも楽しいと知りました。Hiroshiさんが幸運を運んできたようです。(吉崎尚子)